

セアカゴケグモに気をつけましょう

[2013年1月25日]

セアカゴケグモに気をつけましょう

セアカゴケグモは、オーストラリア原産のクモで毒を持っています。セアカゴケグモは外来生物法に基づく特定外来生物に指定されており、平成7年に大阪府内で初めて発見され、その後、各地で確認されています。

茨城県内では、平成25年1月23日に神栖市東和田地内で初めて発見されました。

セアカゴケグモは、日当たりのよい温かい場所で、地面や人工物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間に営巣するので、注意してください。

セアカゴケグモを発見したら

- ・セアカゴケグモを見つけても、絶対に素手で触らないでください。
- ・市販の家庭用殺虫剤（ピレスロイド系）を使用するか、靴で踏みつぶして駆除することができます。
- ・ただし、卵のう内の卵を殺虫剤で殺すことは難しいので靴で踏みつぶして下さい。

セアカゴケグモの概要



茨城県神栖市で発見されたセアカゴケグモ 《神栖市役所 撮影》

原産地

オーストラリア

特徴

○雌

成体の雌は体長（脚を含まない。）が約0.7～1cmで、全体が黒色で腹部の背面と腹面に赤色の模様があります。

○雄

成体の雄は体長が約0.4～0.5cm、腹部の背面は灰白色をしています。

○卵のう

卵のう(中には数百個程度の卵が入っています)は直径1~1.5cmで乳白色です。

○毒を有するのは雌のみであり、雄は無害です。

生息場所

日当たりのよい暖かい場所で、地面や人工物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間に営巣します。具体的には次のような場所です。

- ・排水溝の側面やふたの裏
- ・花壇のまわりのブロックの窪みや穴、プランターと壁との隙間、植木鉢、プランターの持ち手や裏
- ・自動販売機の裏、クーラー室外機の裏、浄化槽ブロアーカバーの内部などの人工的な熱源の周り

習性

基本的におとなしく、攻撃的ではありません。ただし、素手でさわったり、捕まえたりしようとすると、咬まれることがあります。

咬まれた時の症状

咬まれると局所の疼痛、熱感、痒感等が生じます。通常は数日で症状は軽減しますが、脱力、頭痛、筋肉痛等は数週間続くことがあります。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じます。

詳しくは環境省作成のパンフレットをご覧ください。

http://www.env.go.jp/nature/intro/5pr/files/r_gokegumo.pdf